

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O190400838		
法人名	株式会社恵み野介護サービス		
事業所名	グループホーム フレンドリイ		
所在地	札幌市西区八軒10条東3丁目1-20		
自己評価作成日	平成31年3月7日	評価結果市町村受理日	令和1年5月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190400838-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年4月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ① アットホームな雰囲気。職員が個々に入居者様の心身の状況を細かく観察しその都度家族のような自然な形で入居者様と寄り添い共に生活する、笑顔が絶えないホームを目指しています。
- ② 地域との交流町内会の催しや行事への参加や散歩の際に近所の住民との挨拶や交流、ホームの行事に町内の方々が来訪され入居者様と交流されて地域とのふれあいを大切にしています。
- ③ 火災発生時に備えて自動火災報知器とスプリンクラーを設置している。また、災害時に備え大型の発電機、ポータブルストーブ、備蓄の水、米、他食料を近隣の方が来られても対応できるように対応している。
- ④ 美味しい食事の提供。味だけではなく栄養価や個々の入居者様の嚥下・咀嚼機能にも配慮して提供しています。行事食や季節感を味わって楽しめる様に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム・フレンドリイ」は、JR八軒駅やバス停からも近い静かな住宅地に立地している1ユニットの事業所である。女子寮を改築した建物は2階に8室と浴室、1階には1室と居間兼食堂があり、段差がなくエレベーターの使用で利用者は安全に移動ができる。当事業所は開設10数年が経過しており、昨年の5月に運営主体法人を変更し、8月に就任した管理者は職員とともに新たな体制づくりで日々検討しながら進めている。今までの運営を継続しながら新たな視点でケア理念にある地域住民も含めた「ふれあい」を大切に、職員と日々話し合う中で今年度の具体的な方向を共有しながら取り組んでいる。地域との関係では地域のイベントに利用者も参加して住民と交流し、運営推進会議や避難訓練に町内会長や役員の協力も得ている。また事業所も廃品回収や地域住民に役立つ姿勢で協力し、良好な関係が継続して行われている。介護計画では全職員がサービスを評価し、利用者の得意な面や馴染みの習慣を活かしながら、ぬり絵、貼り絵、編み物、縫い物、カラオケなどが楽しめるように、職員は明るい笑顔で利用者に優しく声かけをしながら丁寧に対応している。法人のバックアップの下で管理者と職員は新たな視点で地域に根差したホームづくりを前向きに取り組んでおり、今後に期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの法人理念、基本理念を見やすい場所に掲示し毎朝のミーティングで職員が確認しあってから業務にはいります。	昨年の運営主体法人変更時に、地域密着型サービスの文言が入っている法人理念に沿って介護理念を作成し要所に掲示している。毎週月曜日の申し送り時にケア理念を唱和し、職員はケア理念を意識して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催しであるふくまちのお楽しみ会である音楽会に参加させて頂いたり、町内の廃品回収にも参加しております。又、当ホームの敬老会やクリスマス会、非難訓練にも町内会長さん他が参加して頂いています。	連合町内会主催のイベントに利用者も参加し、地域の各グループのフラダンス、歌などの披露を觀賞し住民と交流している。事業所行事に町内会長や役員を招待し、役員のピアノ演奏に合わせて一緒に歌うなど楽しい機会になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会を通じグループホームの存在をアピールし認知症の人への理解を得ている、又AEDの設置を行い近所の方々にも利用して頂けるように周知しております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開いて町内会の役員の方々や地域包括センターの方家族様が参加して、入居者様の様子をお知らせしたり防災訓練や行事の企画を行い助言やお手伝いを頂いています。又、講習会等もおこないます。	昨年度は会議を6回開催し、行事、感染症、避難訓練、身体拘束適正化指針など資料をもとに報告を中心に行い、意見も得ている。家族の来訪時に会議の日時をお知らせし、1～2名の参加を得ているが議事録などは送っていない。	メインテーマを記載した会議案内を全家族に送るとともに、参加できない家族も会議の質疑応答などが分かるように議事録の送付も期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市のグループホーム管理者会議に参加するようにしています。生活保護の利用者については保護課のケースワーカーの訪問を受け密に連絡をとっています。	制度などに関する確認は本部で行い、必要な内容を把握している。管理者は区の管理者会議に参加し、情報や研修内容を職員と共有している。行政の認知症による行方不明者の捜索模擬研修に事業所も参加し、地域住民と一緒に行動している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行っていない。管理者、職員で身体拘束を行わない介護について常に話し合っている。身体拘束委員会も発足しており定期的に委員会を行っている。	身体拘束等適正化指針に沿って委員会を事業所内に設置し、職員は構成員の説明や議事録で内容を共有している。年2回資料をもとに内部研修を行い、身体拘束禁止行為の内容や言葉遣いなどを話し合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員で身体拘束を行わない介護の工夫を常に相談し確認しあってその様な事に繋がっていないかを日々のミーティングの時に各入居者に対する対応や会話などについて話し合い予防に努めています		

グループホーム・フレンドリィ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方は現在はいません。又、地域権利擁護事業を利用されている方も現在はいない。必要とされる方がいらした時は関係機関と協力し合って対応していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族と面談し社長、管理者による分かりやすく説明を行いご家族が納得されてから契約を行っています。ご家族のご理解が得られるよう図っております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様の意見、不満、苦情は管理者職員が聞いてたいおうしています。又ご家族は運営推進会議にも参加されてご意見、要望等をお話いただき運営に反映させていただいています。	家族の来訪時に利用者の意向を伝えながら、ケアの方法を話し合っている。介護計画の意向も聞き個人記録などに記載しているが、記録に残していない面も見られる。今後、担当職員が個別にお便りを作成する方向で検討している。	利用者ごとに記録シートを作成し、家族の意見や気になる点などを把握し、また職員の気づきも含めて記入し、家族の思いを共有できるように期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議の時や毎朝のミーティングの時に意見、希望、提案を聞いて職員皆で話し合いその都度GHホーム内で解決出来る事は実践し解決している。本社対応の時は社長に相談し対応している。	毎月のケア会議に代表者も参加し、ケアの方法を確認したり、利用者に向き合う時間的な配分で業務改善の意見を交換している。管理者は積極的に意見を聞く場を設けて運営に反映できるよう配慮し、職員との個別面談も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定例の会議に参加し職員からの要望を聞いて反映してくれている。また、管理者との話す機会を設けてくださりGHホーム全体の事から職員の勤務状況の報告を受け職員全体が働きやすい環境を提供して頂いています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会の職員研修等に参加したり、定例のケア会議において内部研修を行っております。職員がわからない事や迷っている事には管理者が指導や助言を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区内の管理者会議や連絡協議会の研修会や事例検討会に代表や管理者、職員も参加している。		

自己評価	外部評価	項目		自己評価		外部評価	
				実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャと管理者による相談時による家族、本人から話を聞いている。本人とは入居後に他愛も無い世間話から少しずつ関係を築いて状況を知っていく。				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安や要望を、お聞きして又、当施設の姿勢や対応等を詳細に説明し納得して頂く様に努め安心で安全を理解していただく				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様との話し合いでの要望とホームでの対応がどこまで出来るのか職員間で検討し本人、家族の同意を得ながら通院対応や場合によっては入院の促しを行っています。				
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者様に応じて家庭で過ごしている様な日常の活動を一緒にしたり、ご本人のリズムに合わせたレクや行事を行っています。又、自発的に掃除やその他のお手伝いをして下さってます。				
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度は来所されていないご家族に電話にて近況をお知らせしたり、家族会や行事には参加していただいたりして関係を築いております。				
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、知人の訪問を受け入れている。利用者様のご家族や親族と外出されて自宅へ戻ったり出来る様に支援しています。	家族とお墓参りに出かけたり、外出で外食や買い物をしている。受診の帰りにレストランで食事を楽しむ方もいる。職員は会話の中で利用者の嗜好や趣味などを聞き、編み物などが継続できるように支え、作品を事業所内に飾っている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日1回は必ず職員とトランプ、カルタ、編み物、ゲームを行い入居者様同士がお互いに関わりあえる様になっています。				

グループホーム・フレンドリイ

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後への地域との繋がりを考える時今までの関係をありがたく思いその繋がりは大切にしていきたいと考える当施設に入居されていた方が入院され亡くなったが今は奥様が入居されています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや、希望に耳を傾けて職員同士で検討して希望に沿う様に努めています。又、御家族様とも連絡を取り合って検討しています。	会話の中で得た、カラオケ、編み物、塗り絵、おやつ作りなど本人の思いに沿って対応している。アセスメント表を作成しているが、本人の暮らしの習慣、嗜好、趣味などの記載は少ない。	心身情報のアセスメント表のほか、センター方式を使用している利用者もいるので、「B-3」シートを全員に活用し、会話で得た内容を具体的に引き出しながら情報の収集に期待したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人から入居時の情報だけだと忘れている事もある為入居後ご本人や家族からの情報も大切にしています。ご本人、ご家族には居室には馴染みの物の持参を促しております。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェック、日中の水分チェック、一日の排泄チェックなどは克明に記録し毎日の打ち合わせにて情報の共有し適切に支援する様に努めます。残存能力は大切にしていこうに支援します。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞き沿う様に努力をしている。介護員、医療面との意見を総合し介護計画に反映させより良いケアに繋げている。定期的に見直しを行い変化が生じた時その状態にその状態に即した新たな計画で支援する様にしている。介護計画の細やかな見直しとそれに沿った介護のあり方に取り組んでいる	計画見直し時に全職員が評価を行い、担当職員が集約して会議で確認し介護計画を6か月ごとに作成している。個人記録は介護計画を意識して行っているが、今後は短期目標に沿った支援内容の実施や、いつもと違う利用者の様子なども記入しモニタリング評価につなげたいと検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かく個別に記録に記入し職員全体で共有してケアに生かしている、介護記録の実際を把握しあって統一したケアに反映する事が大切であることだと考えて取り組んでいる。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉用具事業所、介護移送サービスによる通院介助その他移送サービス訪問看護などの提供を受け医師の指示を受け適切かつ柔軟に対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、消防、警察、等との協力関係を作り支援している。状況に応じて各種関係機関との協力をえ得て現在を迎えている状況に感謝しております。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携体制について説明承知の上で協力医療機関の定期健康管理や個々の入居者の疾患に合わせた医療機関の受診を支援しています。内科、循環器科、整形、皮膚科は月1~2回 歯科は週1回 眼科、脳神経外科等は入居者の疾患に合わせて、受診出来る体制をとる。また訪問看護の体制も取れるようになっている。	全員が協力医の訪問診療を受けている。専門的な他科受診は家族の希望に沿って対応し、受診時に健康情報を渡している。受診内容は個人記録に記入しているが、今後は利用者ごとに往診、受診を時系列に記録し、詳細は個人記録に辿れるように受診記録の作成を検討している。		

グループホーム・フレンドリィ

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの管理者とGHの管理者が密接に連絡を取り相談支持を受け対応し協力医療機関との連携もスムーズである。訪問看護師は週1回来て健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医と連絡を取り合い現病気に即した内容に伴い必要に応じ話し合いを行い、ご本人がGHIに戻り、従来の生活に戻れる様に支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現ホーム状況等から看取りまでは実地していませんが入居時にホームとして支援できる範囲説を明かしており重度化と看取り指針を提示して家族から同意を頂いています。入居者の状態の変化に応じて家族との相談や医療機関との連携を蜜にとり支援しています。	利用開始時に重度化対応や看取りの考えを文書で説明し同意を得ている。状態の変化時には家族の意向を再確認している。食事などの工夫で可能な限り対応しているが、継続的な医療行為が必要な時は協力医の紹介で入院方向になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故報告書、ヒヤリハットを記入し再発防止の為に毎月の会議時に話し合っている。緊急時のマニュアルを全職員が周知している。AEDの応急処置機器を整備している。AEDの取り扱いについては新しい職員が入職するとその都度講習をする事となっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営者、管理者、職員、利用者、地域住民による避難訓練の定期実施。火災発生時の緊急通報装置の設置し職員及び近隣住民が避難誘導に駆けつける体制が整っている。職員の会議では防火及び避難方法について職員間で統一した認識でいます。運営推進委員会では常に地域の協力をお願いしている。年2回の避難訓練に夜間の訓練も行った(10月25日)地元町内会の協力を得て意見を頂き今後につけていきたい。又9月6日の地震に時は町内会の方がホームに駆けつけてくれ安否確認をしてくださりました。震災後は発電機を購入、ストーブ、食料の備蓄などを購入しています。	昨年度は昼夜を想定した避難訓練を行い、町内会役員は誘導後の見守りで参加しているが、消防署の立ち会いは得られていない。昨年地震後に緊急連絡網の作成、冬期も含めた備蓄品類を再確認し整備している。トイレ使用中の災害を想定し、職員間で対応も話し合っている。	避難訓練計画の際に消防署の立ち会いを希望し、定期的な消防署の協力で避難訓練の実施を期待したい。また火災以外の災害時対応マニュアルを分かりやすく整備するとともに、入浴時の地震を想定し利用者ごとの対応を職員間で話し合い、内容を地震時の対応マニュアルに追加し共有できるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の人格を尊重し本人の残存能力を大切にその方の尊厳を傷つけることが無いように、職員は自分の立場に置き換え言葉使い、対応を考えて行うようにしています。また個人情報にも充分注意して取り扱っています。	内部研修で言葉かけなどを学び、利用者へは「さん」づけで呼びかけている。申し送りの時は音楽をかけて利用者に関心がないように工夫したり、個人名を出さないで書面で示している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の思いをゆっくりと聞いて受け止めて自己決定が出来る様にサポートし又、職員全員で支援しています。		

グループホーム・フレンドリィ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方が希望する事等を聞いたり、職員がその方のペースを大切にし意思を尊重しながらしえんして ます。常に職員同士で入居者の情報を共有するように話し合っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度の出張美容室が来て、カット、カラー、お化粧品を支援。服装は個々のおしゃれ心を尊重し 楽しめるように支援しています。		

グループホーム・フレンドリィ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルセッティング等出来る事の役割分担をして頂き職員も同じテーブルで同じものを食べてその人に合わせた支援や声かけを行っています。四季折々の行事食を提供したりお弁当にご自分でご飯、おかずを詰めて食べたりと楽しく食事が出来る様に配慮しています。	献立は、1週間ごとに職員が交代で作成している。年間行事に合わせて桜餅や恵方巻き、おはぎなどを利用者と一緒に作ったり、誕生日は職員の手作りケーキでお祝している。利用者は、食器拭きや下膳などできることに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は一日を通し摂取されています。毎日水分量を記録し個々の体調に合わせて摂取して頂き、お茶、コーヒー、紅茶、スポーツドリンク等の選んで頂いています。食事は嚥下状態がよくない方などには刻みやトロミなどで食べやすい形状で提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態によって毎食後の口腔ケアの支援や義歯の洗浄、管理を支援しています。必要時には家族に連絡し訪問歯科の治療を受けてます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のプライバシーに配慮し自立排泄が困難な方は排泄チェック表を確認しさりげない声かけ誘導で排泄支援を行っています。又、観察しトイレに行きたい時のサインを見逃さないよう全職員が対応しています。	自立している利用者もいるが、全員の排泄を記録して可能な限り昼夜ともにトイレでの排泄を支援している。家族に本人の意向や状況を説明し、適切な排泄用品と一緒に検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のミーティングの時に、個々の排便確認を行い自力排便が困難な方には下剤の調整を行い、訪問看護の日には排便、洗腸をしてもらっています。日常では、水分の摂取量、排泄の把握を全職員共有しあっています、又毎朝の牛乳の提供、食事での繊維質の食物の提供に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回を目処に実施していますが入居者の身体状況や気分に合わせて日時の変更も柔軟に対応している。職員は入浴中のプライバシーや羞恥心を自分に立場に置き換えて配慮している。	日曜日以外の午前中を中心に、各利用者が週2回入浴できるように支援している。好きなボディソープを使用したり、同性介助などの意向に沿って入浴が楽しめるように工夫している。大きな浴槽で柚子湯を楽しんだこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握し、夜間眠れない方等には日中の生活状況を確認し散歩や体操、緊張や疲労等の日中の活動を増やし生活リズムを整えて安眠に繋げていけるように努めています。不眠のある場合は体調を確認しながら病院からの処方薬を状況に合わせて内服いたします。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の使用している薬の内容を全職員に理解しやすく工夫し何時でも見れるところに置いています。又、誤薬の無いように2重3重のチェックをしています。服薬時には2人以上で確認をしています。ミーティングでは薬の支援や症状の変化の報告を受け記録にて残しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の性格や現状に合わせて掃除、ぬり絵、貼り絵、編み物、縫い物、ゲーム、カラオケ等楽しんでいただける場を一日必ず2～3回午前、午後に行っています。		

グループホーム・フレンドリィ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中の施設は行わず家族と情報を交換して行きたいところへ外出出来る様に配慮し外出しやすい環境作りを常に模索している。暖かくなると、外に椅子を出して日向ぼっこをしたりレクで外出して買い物を楽しみます。	戸外のベンチでお茶を飲みながら外気浴をしたり、連合町内会の行事に参加している。今年度は農試公園にお花見に出かけたり、石狩や厚田方面の海を見に行くなど、季節に応じた外出行事を増やしたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時のご本人と家族の希望をお聞きして自己管理を行ったり希望に沿って管理を行い必要に応じて払い出しを行っている。自己管理が出来ない方は甘味嗜好品や飲み物、日用品等を代わりに購入支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に利用できるようにプライバシーに配慮し、支援を行っている。手紙や、年賀状のやり取りをされている方もいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は居間は白色灯、廊下はオレンジ色と使い分けている。スタッフはサンダルを履かずに音を立てない様にしている。又居間ではテレビを点けっ放しにはせず音楽を流したりとゆったりとした空間を作っています。夏季の暑い時には1階、2階共クーラーを使用して温度調節を行っています。ホームの壁や玄関には季節を感じて頂けるような飾りも行っていきます。	大学の女子寮を改築した建物で、1階の居間兼食堂には大きな窓から明るい光が注いでいる。浴室と居室の殆どが2階にあり、エレベーターで行き来できる造りになっている。玄関や居間に利用者の作品を飾ったり、一緒に制作した季節の装飾が施されており家庭的な温もりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者さん同士を同じテーブル席にしたり職員とも会話を楽しんだりテレビが見たい時はテレビの近くに椅子を移動して観たりと思い思いに過ごす事が出来る様にしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には使い慣れた家具等の生活用品を使用しており安心して居心地の良い空間となっている。クローゼットも広く収納がしやすく、家族の写真なども飾ってます。	居室のドアに、本人が分かりやすいように写真を掲示している。大型のクローゼットがある室内にタンスや鏡、ラジカセなど馴染みの物を持ち込んで本人が過ごしやすいように工夫している。塗り絵を飾ったり、花の装飾品などを置いている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、洗面所を間違えない様に目印や名前を表示しています。入居者の使用している物の位置は変えずに混乱をしないにはしていない。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム フレンドリィ

作成日：令和 1年 5月 3日

市町村受理日：令和 1年 5月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 ご家族の意見や気になる点などを把握する事、また職員の気付いたことを記録に記入し家族の思いを共有できている事。	入居者様が生活されている様子をお知らせし、入居者様やご家族が安心していただける様なホーム作りをする。	○介護記録に、入居者様の思い等を記録する様にする。 ○家族アンケートを実施し入居者様、家族様がどの様な介護を望み、職員に求めることを把握し改善を図っていく。 ○毎月1度のホーム便りを発行する。	1年
2	4	○運営推進会議を活かした取り組み 全家族に運営推進会議の案内を送るとともに参加されていないご家族に会議の議事録の送付を行う事。	ご家族様にホームの運営内容や日々のご様子をお知らせし施設の行事などにも参加して頂ける様関係を促し、より開かれたホーム作りをする。	○全家族に運営推進会議の案内状と「ミニ研修」のお知らせも同封し送る。 ○会議終了後は全家族に会議内容、質疑応答の議事録の送付を行います。	半年
3	35	○災害対策 避難訓練計画の際に消防署の立会いを希望し定期的な消防署の協力で避難訓練を実施する事、災害時対応マニュアルを整備する。火災以外の地震などを想定し利用者ごとの対応内容をマニュアルに追加し共有する。	火災以外の災害に備えた訓練も実施する。	○避難訓練時に消防署に立会いに来ていただく。 ○避難訓練の内容の充実を図る。 ○火災以外の災害時対応マニュアルを作成する。 ○車椅子の方、徒歩の方の避難の対応を職員全体で考え対応できるようにする。	1年
4	23	○思いや意向の把握 全入居者様の心身情報のアセスメント以外の会話の中から得た内容を具体的に把握し職員が対応できる。	入居者様が元気に生き生きとした暮らしが出来る。	○会社の理念に沿った介護を行う。 ○入居者様の声に具体的な支援が出来る様に職員の担当を設け、時には担当替えも行う。	1年
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。